高等学校 3年次 地理歴史科「日本史 B」授業研究報告

岐阜県立各務原西高等学校教諭

1 研究にあたって

(1)はじめに

筆者は日本史の教員であるが、勤務校の事情から地理の授業を多数担当してきた。そのため、世界史・日本史の授業に白地図や地形図などを取り入れる試みに何度か取り組んできた。

そして昨年度は「岐阜町を支えた長 良川水運」をテーマに、生徒と共に考 える授業を企画した。岐阜町は、城下 町である前に、元来が長良川扇状地の 扇端部に成立した港町である。そのた め徳川政権によって軍事的機能をはず された後も、豊富にもたらされる物資 を背景に、純粋な商業都市として近 世・近代にわたって繁栄し続けた。こ の時は、まず岐阜町の古地図や現在の 地形図から読み取れる、扇頂部という 地理的条件の確認をすることにした。 そして長良川水運によって岐阜町に上 流部から物資が結集される実態を理解 するために、岐阜県史史料編第9巻所 収の「西川文書」をもとに、長良川を 経由して岐阜町にもたらされた物資を 生徒と共に確認する作業を行った。こ の時も、実際に現地の巡検を行い、合 わせて岐阜市歴史博物館で学芸員の筧 真理子先生よりご説明をいただいた。

(2)生徒の実態

本校は平成 21 年 11 月 1 日現在で、 男子 3 3 2 名、女子 5 0 4 名、合計 8 3 6 名という中規模の学校である。

単位制普通科高校として比較的自由なカリキュラムを生徒が自主的に組めるのが特徴である。ただし地歴・公民

角田宜樹

科に関しては他校とほぼ同じで、1年で現代社会、2年と3年で文系が世界史 B+日本史 Aと日本史 B+世界史 Aのいずれか、理系が地理 B+世界史 Aを学ぶことが一般的となっている。

世界史 B・日本史 B・地理 B を学ぶ生徒の数は年によって違うが、それぞれ90人前後が標準的な人数である。生徒は主に四年制大学への進学を目指して真剣に授業に臨んでいる。また部活動や学校行事にも意欲的に取り組む。

(3)研究内容に関わる具体的な手立て

今年度は、「岐阜町の南進」を確認 する作業に取り組んだ。城下町の機能 をはずされた後も岐阜市は港町の機能 をもとに、商人町として発展をしてき た。その成果が、市域の南方への拡大 という形であらわれるのである。地元 ではこれをしばしば「岐阜町の南進」 という言葉で表現しているが、この動 きを江戸期から明治に至るまで確認し たい。具体的には、享保期・文政期・ 明治期のそれぞれの時代における有力 町人が居住していた場所を確認する作 業によって、市街地の拡大を検証する ことにした。また「岐阜町の南進」に は、長良川水運による物資に加えて、 南部に位置する加納の城下町の存在、 濃尾平野からもたらされる綿・絹の繊 維産業の存在があり、さらには明治・ 大正期の東海道線・高山線の建設が拍 車をかける結果になったといえる。そ の点についても巡検を通して生徒と確 認することに努めた。



(川原町屋安藤で)

巡 検 平成21年 12月27日(日)

休憩時間に岐阜町の地形図を確認

2 授業展開

【学年】 高等学校 第3年次生

【単元名】 「岐阜町が拡大した過程を知ろう」(全2時間)

【単元のねらい】岐阜町が川港付近からその中心を徐々に南に移動していく様子を確認する。

1時間目・「享保の検地帳」から、享保期の岐阜の有力者の居住区域を知る。 【単元の流れ】

- ・「岐阜持丸相撲鑑」から文政期の岐阜の有力者の居住区域を知る。
- ・「美濃の魁」から、明治中期の岐阜の有力者の居住区域を知る。
- ・「享保の検地帳」・「岐阜持丸相撲鑑」・「美濃の魁」を比較検討して、 岐阜町の拡大の過程(岐阜町の南進)を確認する。

2時間目・長良川の湊町から竹屋町・米屋町筋を実際に見学しよう。(巡検)

【本時のねらい】岐阜町の各時代の中心地を探求する活動によって、岐阜町の南進の過程を知る 【授業の流れ】(1時間目/2時間)

学 習 活 動

1 本時の取り組みの概要説明

【課題】『岐阜古屋鋪見取所検地帳』・『岐阜持丸相撲鑑』・『美濃の魁』 を分析して、岐阜町の発展の過程について意見交換しよう。

2 作業学習

クラスを『岐阜古屋鋪見取所検地帳』班と、『岐阜持丸相撲鑑』班と、 『美濃の魁』班に分割、それぞれに作業を開始する。

近世後期の岐阜町絵図(岐阜県図書館所蔵)上に各時代の有力者・ 商家の所在地を貼り付ける。

〇『岐阜古屋鋪見取所検地帳』班

教員が各人物の所有している土地の面積を集計し、所有面積の多┃・集団で作業ができるように、 い順に並べて赤・橙・黄・水色に着色。これをフリーカットのラベ ルに印刷したものを準備しておく。

生徒は各自はさみで切って古地図上に貼り付ける。

〇『岐阜持丸相撲鑑』班

「岐阜持丸相撲鑑」に記載されている商家と所在地、わかるもの については業種を一覧表にして、大関・関脇を赤、前頭の最上段を 橙、前頭の2段目を黄、前頭3段目以下を水色、それ以外の行司・ 差添等を青で着色。ラベルに印刷しておく。

生徒は各自はさみで切って古地図上に貼り付ける。

〇『美濃の魁』班

『美濃の魁』に記載されている商家と所在地をそのままラベルに 印刷し、生徒はそれをそのまま欄ごとにはさみで切り取って古地図 上に貼り付ける。

3 三つの班で作業した地図を黒板に張り出して比較

- ○『岐阜古屋鋪見取所検地帳』では有力者が北に集中
- ○『岐阜持丸相撲鑑』では商家が南に向かって拡大
- ○『美濃の魁』ではさらに鏡島方面(西)や加納方面(南)に拡大 ・岐阜の拡大の背景に加納や

4 全体で意見交換し、感想を話し合いレポートに記入する

- ○現在も続いている商家の長年の努力や多くの人々の苦労を感じる
- ○加納城下町や鏡島湊とのつながりが背景にあることを確認できた|けたことにも気付かせる。
- ○これからの岐阜市のあり方のヒントにしたい

指導上の留意点 ◎評価規準

- ・岐阜町が長良川の川湊から 南に向かって拡大していっ たことを理解させる
- ・近世後期(詳細年不明)の岐 阜町絵図(世界分布図セン ター所蔵)を各班に一つ用 意する。
- あらかじめ班を決めておく。
- ・検地帳から計算した土地所 有者の作業シートを準備す る。
- ・岐阜持丸相撲鑑の作業シー トを準備する。
- ・「美濃の魁」の作業シートを 準備する。
- ・古地図のくずし字を味わえ るように、ある程度読み方を 生徒に考えさせるようにす ろ.
- ・現在も続いている商家が数 多くあることに気付かせる。
- 鏡島の経済とのつながりが あることに気付く。
- 東海道線の開通が拍車をか
- 名古屋とダイレクトに結び ついた現在の岐阜市のあり 方にも言及する。

48

3 実践のまとめ

(1)生徒の変容

- ・比較的簡単な作業で、生徒は学習に気軽に入ることができた。
- ・現在も続く企業の存在に、歴史的な重みを感じさせることができた。

(2)成果と課題、課題解決の方途

- ・『岐阜古屋鋪見取所検地帳』がどこまで有効な史料か疑問が残る。他の有力な史料を捜したい。
- ・鉄道開通後の本格的な都市拡大についての学習がさらに必要だと思う。

《評価規準》

資料活用能力:それぞれの商家・有力者の成立する場所に地理的条件があることを見出す。

知識理解:岐阜町の繁栄に貢献した商家・企業を知る。

思考判断: これからの岐阜の発展の方向について考察できる。 興味関心態度: それぞれの史料の記載に興味を持ち探求する。

→ 地形図と歴史史料を結びつけて検討することが有効であることを認識させる。

《作業学習の様子》



『岐阜古屋鋪検地帳』班の作業



『岐阜持丸相撲鑑』班の作業



『美濃の魁』班の作業

《巡検の経過》 (平成21年12月27日実施)

岐阜町が長良川水運をもとに発展したことを実感するため、まず旧中川原(現玉井町)の長良川湊跡から巡検を開始した。最初に長良川役所跡地と、そこで役銀徴収を請け負った附問屋の西川家、材木商の桑原家、同じく材木商の丹羽家を見学した。途中、玉井町の川原町家安藤で昼食をとり、続いて岐阜市歴史博物館で学芸員の筧真理子先生より、岐阜町の南部に現れた豪商、渡辺甚吉家について説明をいただいた。

岐阜町が江戸後期には長良川水運だけでなく、南部諸村の 綿織物・絹織物を集積して栄えた町でもあることを学んで、 松屋町の旧渡辺甚吉邸に向かった。この巡検によって岐阜町 が南へ領域を拡大する様子を確認できたと思う。

《参加した生徒の感想》

私は、政事市本身ですが、今まで、首の政事市はでかようだ。たのか、 どかように、政事の町がつくられていったのか、とかような人物が活躍していたのか、はなんで家のませんでした。 関係と適して、長食りには「板木が呈ばれていたことで、 政事の町がでかようにつくられたのか、学がことができました。 これも機会に、長春に分けるとき、は、今までと違った 負命で、建物を見たり、町と歩いたりすることができます。 「政事を発言として、投業では学べない、「好事の歴史と」、 学ぶことができて、本学に良からたと思います。

《巡検の様子》



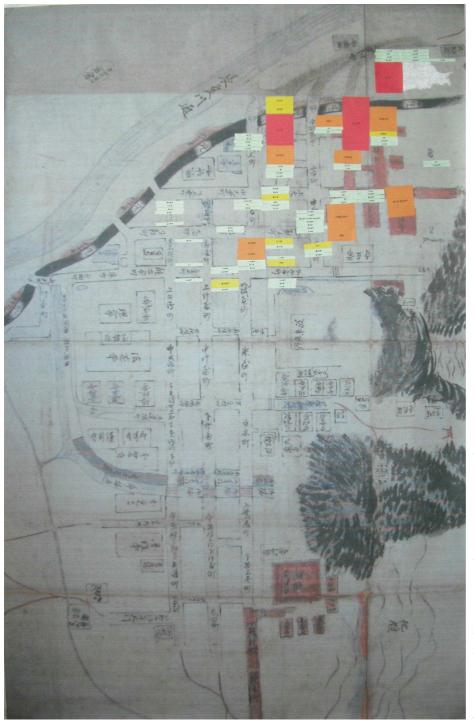
川原町屋安藤前にて(玉井町)



岐阜市歴史博物館で説明を伺う

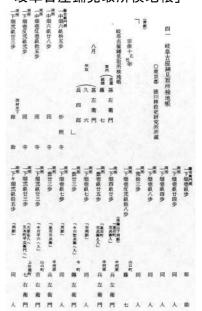


渡辺甚吉邸跡 (松屋町)



4 参考資料

【資料1】 享保10(1725)年 「岐阜古屋鋪見取所検地帳」

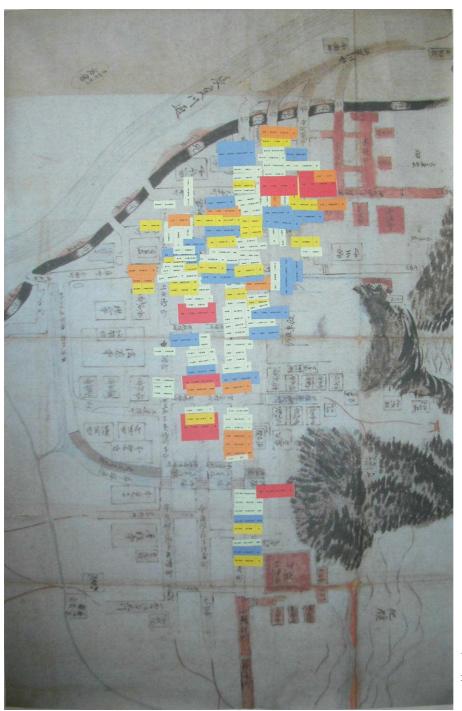


「岐阜県史 史料編 近世1」 より転載

享保 10(1725)年、将軍に紀 州藩出身の徳川吉宗が就任し たことを受けて、対抗意識を 高めた尾張藩の財源確保策の 一つと考えられる。従来は除 地(=非課税)だった土地に 課税するために検地を実施し たものと思われる。

当時は土地の「質入れ」を 名目とする土地売買が盛んに 行われており、赤・橙・黄な どに着色された土地所有者は 自作農ではなく、土地集積を 進めた地主と考えられる。

- ・土地の所有者が岐阜町の北部に集中している。
- ・古屋敷の畑の周囲に土地所有者が集中するのは当然のことで、これをもってこの当時の経済的な有力 者すべてが岐阜町北部に集中していたとは即断できない。
- ・(西川) 喜之助 (=長良川役所附問屋)・(加嶋) 清左衛門 (=岐阜町惣年寄加嶋勘右衛門の分家)・河崎喜右衛門 (=御鮨所)・河崎善太郎 (=御鮨所)・中島茂庵 (=材木商中島両以の縁者)・中島道碩
- (=材木商中島両以の縁者)など、農業に従事していないと思われる名前が多く見受けられる。<mark>水色</mark>の零細土地所有者は自作農と考えられるが、それ以外の<mark>赤・橙・黄</mark>で着色したメンバーは、財力や武家との関係により土地を集積した有力者、すなわち地主が多いと考えられる。
- ・当時は借金の担保に土地を取られるという形の、事実上の土地売買がさかんで、土地を多く持っていた者には、純粋な農家でなく、有力商家や町役人的な立場だった者が多く含まれると想像される。
- ・岐阜町南の小熊・今泉等に農地を持っていた有力者が岐阜町南部に暮らしていた可能性はある。



【資料2】 文政13(1830)年 「岐阜持丸相撲鑑」



遠藤史郎氏所蔵

岐阜町の商家番付表。渡辺甚 吉家にあった物を篠田祐八郎が 書写し、さらに森義一が書写。 したもの。

赤:大関・関脇・小結 橙:前頭最上段 黄:前頭2段目 水色:前頭3段目以下 青:行司・差添等

- ・この番付は岐阜町に限定されており、中河原新田村・小熊村・今泉村・鉄屋町の有力商家は除外されている。そのため岐阜町以外の有力者の様子を特定することはできない。
- ・大関・関脇クラスの赤色や橙色の有力者が青色の有力者よりも南部に存在している。
- ・黄色の中堅クラスが北部に集中している。
- ・寺院や神社の建っているエリアには商家は少ない。
- ・岐阜町の土居(信長がつくった堤防)より南に伸びる上笹土居町・下笹土居町に商家が成立していたことがわかる。ここは土居より南であるにもかかわらず、岐阜町のエリアだった。ここから岐阜の商家が南の加納に向けて盛んな経済交流をしていたことが想像される。
- ・笹土居町筋は南に進むと加納上大手門にあたる道筋、加納の経済力とのリンクがあったらしい。
- ・他の二つの道筋から南部に向けて商家が成立していたかは、この番付からは不明だが、後の「美濃の 魁」にも有力者が現れないことから、この道には大きな商家は育たなかったと想像できる。



【資料3】 明治16(1883)年 「美濃の魁」(福井熊次郎 編)





岐阜県図書館所蔵 (インターネットで公開中)

当時日本各地で出版された、 地方の名産品および有力商家を 紹介するガイドブックの美濃版。 ここでは岐阜町のみを扱ったが、 他の部分には加納中山道沿いや 大垣・養老・安八などの商家が 記載されている。

美濃地方を代表する商家が紹介されているものであり、「岐阜持丸相撲鑑」の3段目以下の零細商家でなく、1段目や2段目あたりに相当する有力商家ばかりと考えられる。

- ・どの商家も有力者がまんべんなく広く生活している。
- ・絵図の左端、上ヶ門町付近にも商家が成立しており、西方の鏡島湊との関係を想像できる。
- ・岐阜町南部の小熊・今泉・鉄屋町の記載があり、「岐阜持丸相撲鑑」にない領域の様子がわかる。
- ・明治 16 年の段階では岐阜町の南の領域にも有力者が成長していたことがわかる。岡本太右衛門(鉄屋町 鍋釜製造)や篠田祐八郎(上加納 薬種商)などは岐阜と加納の境界線上にあって明治より以前から大きな商家になっていた可能性が高い。
- ・尾張藩岐阜代官所が廃止され、末広町や桜町になったが、その跡地に劇場「末広座」をはじめ、料亭や旅館などが多く出店した。岐阜町の新たな経済発展の起爆剤になったと思われる。・
- ・「美濃の魁」でも加納城大手門に通じる道に有力商家が連なっている。この道筋が岐阜町の拡大に大き く貢献したことがわかる。
- ・古屋敷は「岐阜持丸相撲鑑」も「美濃の魁」も有力商家が成立していない。(前者は畑、後者は公園)

高等学校 第3学年 地歷科授業研究報告

岐阜県立可児高等学校 鈴木 真

1 研究にあたって

(1)はじめに

高等学校では中学校までの社会科という教科はなくなり、地理歴史科と公民科に分かれる。しかも、各高等学校により選択科目が異なり、「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」「地理A」「地理B」「現代社会」「倫理」「政治・経済」の9科目から選択される。

本校での地理学習は「地理A」と「地理B」を 履修している。2年生文系の生徒は「地理A」を 履修し、2,3年理系の生徒は「地理B」を履修 している。授業はプリントを中心に学習し、ワー クブックで作業を行い、小テスト、問題演習で知 識の確認を行うというのが流れである。

今回、取り組んだ分野は「地図化によって何がわかるのか」という項目の「さまざまな主題図を作ろう」という分野である。教科書では「都道府県別生徒一人あたりの高校校地面積(1998年)」という資料を参考に階級区分をそれぞれ決め、階級区分図を作るという作業を行う。しかし、この内容は生徒にとってあまり身近な問題ではなく、興味が湧きにくい。3年生の生徒にとって役に立つ作業内容はないのかと検討した結果、今回発表する「可児高校の過去4年間の卒業生はどこの国公立大学に合格しているのか。また、地域的な特徴はあるのか」という内容で階級区分図を作成することにした。

(2)児童生徒の実態

本校は男女共学の各学年8クラスの全日制普通科高校である。1年生は文理の別はなく、同じカリキュラムを学習するが、2年生から文系と理系に分かれる。1年生は「政治・経済」を学び、2年生文系クラスでは「世界史B+地理A」か「日本史B+世界史A」を選択する。理系クラスでは「地理B+世界史A」を選択する。3年生は各B科目を継続して学び、文系の生徒は現代社会2単位が加わるというカリキュラムである。

本校は多くの生徒が大学入試センター試験を

5 教科型で受験する。地歴公民科目も大学入試科目であり、特に「世界史 B」「日本史 B」「地理 B」は授業中の小テスト、週末課題、長期休暇中課題など大学受験に向けて取り組んでいる。

生徒の学習能力は全体的に高いと思われるが、 理系クラスは全員が地理を履修しなくてはならないため、地理が不得意な生徒も多く、特に地図 の読図、気候区分、資料分析が苦手な生徒が多い。 また、農業や地形など生徒にとって身近な分野に も関わらず、興味を持たない生徒が増えている。

1年	2年	3年	
	日本史 B+世界史 A	日本史 B+現代社会	
現代社会	(3単位) (2単位)	(4単位)(2単位)	
	世界史 B+地理 A	世界史 B+現代社会	
(2単位)	(3単位) (2単位)	(4単位)(2単位)	
全員必修	地理 B +世界史 A	地理 B	
	(3単位) (2単位)	(4単位)	

(3)研究内容①と②に関わる具体的な手立て

今回実践した「地図化によって何がわかるのか」という単元を元に3年生にとって身近な進路研究に絡め、作業を行う計画を立てた。

まず最初に本校の国公立大学合格者数を学校 要覧から抜き出し、都道府県別に人数を集約する。 県名や県庁所在地名が付いている大学なら分類 しやすいが、東北大学、電気通信大学などはどこ にあるのかわかりにくい。これらの大学の住所を 調べるために旺文社の蛍雪時代(大学の情報を調 べる事ができる雑誌)やインターネットを準備し ておく。人数を集計したあとは統計地図を作るの だが、どのような地図にすれば見やすくわかりや すいのかを考えさせる。階級区分図を作成する際 には、統計数値の区切り方、かたより、濃淡や色 彩の決め方を説明する。作業の結果、合格者の多 い地域はどこか、逆に少ない地域はどこかなどわ かったことを記入し、各班内で発表する。

最後に各班ごとに、大きくコピーされた用紙に 階級区分図を作成し、発表するというのが授業の 流れである。

2 授業展開 その1

【学 年】高等学校 3 学年

【単元名】「地図化によって何がわかるのか」」(主題図をつくってみよう)・・・全3時間

【単元のねらい】

地図でとらえる現代世界について、地図化のメリットや地図化でわかることを考察し、地図化の技能を習得する。特に3年生にとって重要な関心事である卒業生がどこの大学に合格しているのかを調べ、都道府県別の階級区分図を作成し、進路研究にも役立たせる。

【単元の流れ】

- ・地図化のメリット・図法(1時間)
- ・主題図の見方と作り方(本時)
- ・班別に階級区分図を作ろう (1時間)

【本時のねらい】

【課題】

本時は過去4年間の国公立大学合格者数を都道府県別に分類し、階級区分図を作成する技能を学ぶ。

【授業の流れ】(2時間/3時間)

学習活動

可児高校の過去4年間の卒業生はどこの国公立大学に合格 しているのかを調べ、都道府県別の地図を作成し、進路研究 に役立てよう。

1 可児高校の国公立大学合格者数を知る

・資料から過去4年間の卒業生の合格者数を知る。

2 国公立大学の住所を調べよう

- ・都道府県別に分類し、人数を集計する。例えば東北大学や都留文科大学など大学名だけでは住所が分かりにくい大学を調べるにはどうすればいいのかを考える。
- ・答え合わせ→集計が終了した人は人数が合っているのかを答え合わせ をする。→数値が合っていた班から次の作業に進む。

3 主題図をつくろう

・都道府県別にどの地域に合格者が多いのかを知るための地図はどんな 地図にすればよいのかを考えて班内で意見を出し合う。

【例】 等値線図、図形表現図、ドットマップ、階級区分図 等

- ・階級区分図を作成する場合、どの数値で区切ればいいのか、色はどう すれば見やすくなるのかを考えて作業を行う。
- 4 作業の結果、わかったことを記入する
 - 【例】・岐阜、愛知を中心に中部地方や大都市に集中している。
 - ・遠くなるほど人数が少なくなる。九州や沖縄にはあまり行っていない。
 - ・よく聞く琉球大学が0とは意外だった。
 - ・千葉や京都が少ないのが意外だった。

5 班別発表

・班別に意見をまとめ、各班の代表者がわかったことを発表する。

6. 今日の授業でわかったこと

- 【例】・統計資料だけだと比べにくいが、地図にすると比べやすかった。
 - ・区分の仕方により見やすさがずいぶん変わってくることがわかっ た。
 - ・誰も合格していない県に行くのはおもしろいと思った。
 - ・こういう地図はテレビや雑誌で見たことがある。しかし、どの人数で区切ればいいのか考えるのがとても難しかった。今度はドットマップを作りたいです。

指導上の留意点 ◎評価規準

- ・資料配付(作業プリント)
- ・本校の学校要覧から大学別合 格者数を印刷しておく。
- ・大学の調べ方を学ぶ。(例)イン ターネット・旺文社蛍雪時代など
- ・作業の遅れている班には地区 別に分担して人数を調べる ように指導する。
- ・公立大学をたしていない場合 があるので注意をする。
- ・統計数値を見ながら $4\sim6$ 階級くらいに区分させる。
- ・個数に片寄りはないかを確認
- ・色の決め方の注意事項の説明
- ・色塗りの作業が終わった生徒 から作業の結果、わかったこ とを考えさせる。
- ・全員に聞こえるような声で発 言しているか。

- ・作業プリントを回収
- ・次の授業 (作業) の予告
- 机列をなおす

2 授業展開 その2

【学 年】高等学校3学年

【単元名】「地図化によって何がわかるのか 」(主題図をつくってみよう)・・・全3時間

【単元のねらい】

地図でとらえる現代世界について、地図化のメリットや地図化でわかることを考察し、地図化の技 能を習得する。特に3年生にとって重要な関心事である卒業生がどこの大学に合格しているのかを調 べ、都道府県別の階級区分図を作成し、進路研究にも役立たせる。

【単元の流れ】

- ・地図化のメリット・図法(1時間)
- ・主題図の見方と作り方(1時間)
- ・ 班別に階級区分図を作ろう (本時)

【本時のねらい】

前時に各自が作成した階級区分図をもとにわかりやすい階級区分図はどのように作成すればいいの かを班別に話し合い、地図化する利点を学ぶ。

【授業の流れ】(3時間/3時間)

学 習 活 動

【課題】 前回自分が作った階級区分図と他の人が作った階級区分図 を比較して、どの数値で階級を区分し、どの色を使えばわか りやすいのかを意見を出しあい、より良い地図をつくろう。

1 階級区分図を班内で発表する

・前回、自分が作成した階級区分図を班員に見せ、どこを工夫した地図 なのかを班内で発表する。(例)数値の区切り方、色彩の決定方法など

2 班ごとに階級区分図を作成しよう

- ・どこで階級を区分すればバランスの良い見やすい地図が作成できるの か、色彩はどのように決めれば見やすいのかを話し合う。
- ・各班で色彩、階級区分を決めて作業を開始する。
- ・着色作業が終わった班から発表者を決める。
- ・工夫した点、難しかった点など班員で話し合い、発表する内容を考え る。

3 発表

各班の代表が、自分たちの階級区分図の特長を発表する。

4 今日の授業でわかったこと

【例】

- ・僕たちの班は色分けの数値で迷った。だけど、みんなで意見を出し合 って討論できたのでよかったです。
- ・やはり比較的近いところが多かった。色づけをする過程でどのような 色にするかなどの意見交換がおもしろかった。
- ・自分が作った地図と他の人が作った地図を比較したら、どこで区分を するのかで印象の違う地図ができあがった。地図にもいろいろな個性 が出るということもわかった。

指導上の留意点 ◎評価規準

- ・共同で作業を行いやすいよう に図書館に移動。机を移動さ せ、班員がすべて着席できる ように机、椅子を移動してお
- ・階級区分や色彩の決め方が悪 いと作図の意図が伝わらな いことを理解する。
- 話し合いがきちんとできてい るか確認する。
- ・拡大機でコピーしておいた目 本地図を各班に配布。
- ・マジック、ポスターカラー、 下にうつらないように古新 聞を用意しておく。
- ・全員が作業に参加しているか を確認する。
- ・作業が遅れている班に対し、 分担して作業を行うように 助言する。
- ・各班で製作した地図を比較し やすいように黒板に掲示す
- 見やすくわかりやすい地図と は何かを理解する。
- 本日の授業のまとめを書く。
- ・作業プリントを回収
- 机列をなおす

55

3 実践のまとめ

(1)個に応じた指導·評価(Aくん)

理系生徒全員が地理を履修するカリキュラムであるため、地理が苦手な生徒もいる。Aくんもその一人である。

地理学習の重要な点として「**地理的見方や考え 方を培う」こ**とである。その1つの方法が地図の 活用である。作業を通して地図を作成することで 地図の有用性と地理的技能、読図能力が身につく。

しかし、地理の苦手な生徒の場合、地図の意図 している情報を読み取る能力が不足しているた め、せっかく地図化してわかりやすく加工した地 図に接しても、地理的情報を読み取れない場合が 多い。Aくんも作業を非常に面倒なことと考えて おり、ノルマとして適当に色を塗り、深く考えず に答えを書くことが多い生徒であった。

(2)児童生徒の変容(Aくん)

今回の授業は教室を離れ、図書館を使いグルー プ学習を行った。そのため、グループ内で意見を 交換しながら作業を進めたため、作業内容はいつ もより丁寧で、色遣いも色鉛筆を借りながら丁寧 に行うことができた。作業が丁寧にできると地域 的な特徴も見分けやすくなり、感想も普段よりは 多く書かれていた。Aくんの最初の感想は「都道 府県名と場所がわかった」である。小中学校で学 習してきたはずの都道府県名が資料を読み取り、 作業をする過程で初めて身についたと思われる。 高校でも教科書に入る前に主要な国名と都道府 県名を覚える作業をしたはずなのに記憶として は残っておらず、本当に作業として終わっていた のである。しかし、今回は関心のあるテーマに沿 って作業を行ったため、定着できたのではないだ ろうか。「数字だけの表だとわかりにくいものも 地図に表すことですごく見やすくなると思った」 「近場の大学が多く、北の方、南の方、交通が不 便なところに行く人が少ない。東京、大阪など都 会の方へ人が集まる」とも書いてあった。今回の 作業を通して、地図の意図している情報をきちん と読み取れ、地図化のメリットも理解できたので はないかと思われる。

(3)成果と課題、課題解決の方途

平常の授業は大学受験に向けた知識重視の 教科書に沿った内容で授業を行っている。しか し、授業内容をより深く、確実に浸透させるた めには作業も重要である。学習指導要領にも単 なる知識を理解するだけでなく、「地理的な見 方や考え方」を培うことを重要視している。

今年度の研究テーマである「描図能力・地図活用能力の評価の在り方の工夫」について考えた時、生徒自らが地図を作成するということ、身近なテーマで地図を作成すること、作業内容が進路研究にも役に立つことという3点を重視した。その結果、本校の卒業生が合格した国公立大学の合格者を都道府県別に色分けをし、階級区分図を作成するという内容になった。

既製の作業帳では与えられた階級と数値に 従って決められた色を着色し、わかったことを 記入するという内容がほとんどである。これだ とただの色塗り作業に陥りやすい。

今回行った作業は、

- ① 大学名や本校の卒業生がどこの都道府県の 大学に合格しているのかがわかり、3 年生 の生徒にとって進路研究に役に立つ。
- ②都道府県別に分類するにはどういう種類の 地図が適しているのかを考える。さまざまな 主題図を学ぶことにより、統計の種類や性質 によって適している地図があることを学ぶ。
- ③階級区分図でどの値で区分し、色を決めれば 見やすい地図がつくれるのかを考える。
- ④班ごとにできあがった地図をくらべあうことでわかりやすい地図の特徴を知ることができる。階級区分や色彩の決め方が悪いと作図の意図が伝わらないということを知る。
- ⑤作業の結果、合格者の地域別の特徴を知る。 今回の作業の結果、既製の作業帳からは得ら れない多くのことが学べたと思う。

今回の作業を通して多くの生徒が地理的 技能を身につけることができ、今後の地理学 習に活用できる能力を培えたと思っている。

4 参考資料

【資料1】授業時使用プリント



作業手順

1. 国公立大学の住所を調べよう。

どうやって調べればいいか、みんなで考えよう!

→ (例) インターネット、蛍雪時代(全国受験年鑑)

1

2. 都道府県別の合格者数を右の表に記入しよう。

- 3. どのような地図にすれば分かりやすいのかを考えよう。
 - 階級区分図 → (例)

1

4. 仕事を分担して、作業を行おう!

- 5. 作業を行った結果、分かったことを書こう。 (例)
- ・受験先が全国に広がっている ・九州はあまり合格者がいない・愛知・岐阜県が多い(特に愛知県が多い)・東京・大阪など大都市が多い。・岐阜県から近い中部地方が多い。

1

- 6. 代表を決めて班ごとに発表しよう。
- 7. 今日の授業でわかったこと、感じたことを記入しよう。

3年 組 番 氏名

no	都道府県名	人 数
1	北海道	8
2	青 森	1
3	岩 手	1
4	宮城	9
5	秋 田	4
6	山形	1
7	福島	
8	茨 城	1 5
9	栃 木	1
10	群 馬	1 4
11	埼 玉	2
12	千 葉	4
13 14	東京	4 8
14	神奈川	1 2
15	新 潟	3
16	富山	2 3
17	石 川	2 7
18	福 井	1 9
19	山梨	1 4
20	長 野	1 6
21	岐 阜	1 2 4
22	静岡	3 3
23	愛 知	2 2 9
24	三重	1 5
25	滋賀	1 6
26	京 都	7
27	大 阪	2 5
28	兵 庫	1 4
29	奈 良	7
30	和歌山	2 2
31	鳥 取	2
32	島根	3
33	岡山	3
34	広 島	4
35	山口	4
36	徳島	1
37	香川	2
38	愛媛	2
39	高知	
40	福岡	5
41	佐 賀	
42	長崎	2
43	熊本	2
44	大 分	
45	宮崎	
46	鹿児島	
47	沖 縄	

☆持ち物☆

教科書、ワーク 地図帳、計算機 筆記用具(4色)

【資料2】授業風景 都道府県別人数集計中 【資料3】インターネットで住所を検索



【資料4】階級区分図を作成

【資料5】グループ討議



【資料6】班別階級区分図作成中

【資料7】 完成図



高等学校 第3学年 地理歴史科(日本史A)授業研究報告

岐阜県立東濃高等学校 野村 剛漢

1 研究にあたって

(1)はじめに

私は、河川湖沼交通を研究主題とし、近代史研究にも関心を持つ日本史を専門とする教員である。本稿は、平成20年度、大垣北高校在勤時における取り組みによるものである。この年は、2年生の日本史Bを中心として3年の一部の生徒に日本史Aと世界史Bを担当した。

歴史上の人物やさまざまな事件を少しでも身近に捉えることを目指し、歴史の楽しさを感じることを通じて理解を深めさせたいと心がけており、そのためのツールの一つとして資料集にある地図を確認する機会を意識的に提供し、さまざまな事件を少しでもイメージしやすくすることを心がけている。

(2)生徒の実態

B科目では、2年間で原始から現代まで授業を 行うためには授業進度を確保する必要があり、何 か特別な取り組みをして生徒の成長を促す機会 を持ちにくいのが現状である。

そのようななかで、3年理系生徒が選択するた日本史Aは、センター試験において地歴科を世界史Bで受験する生徒が対象であり、このクラスでは世界史学習を前提とした日本の近代史を展開した。

この日本史Aは、生徒が受験に直結しない科目と軽視する恐れを抱いた。そこで、生徒ができるだけ歴史的な考え方で物事を考えるようにすることで、日本史学習が世界史学習を支えるものになるよう目指した。具体的には、一方的なかつ先を急いだ教授ではなく、生徒が質問しやすい雰囲気を作り、彼らの疑問を受け止めながら授業を行うよう心がけた。そのため、こちらの計画通りに授業は進まないことが多くなったがあくまでこの姿勢を崩さず授業を進めるなかで、本質を突く質問が多く出るようになり、こうした取り組みにおいてはある程度の成功を収めたのではないかと考えている。

(3)研究内容(特に②)に関わる具体的な手立て

日本史Aは、テーマ史を取り扱うことが多くできる科目でもあり、前期・後期1回ずつテーマを 定めて、特定のテーマを取り扱う授業を計画・実施した。

前期は、自分の専門性を紹介するきっかけとして、近代の揖斐川水運(桑名~大垣)について取り扱った。生徒が大垣駅前にわずかに残る船溜跡に関心を示したりして、特に鉄道との親和性・共通性を感じる機会になったと思われる。

後期は、今回レポートする水害に関する授業である。地図を通して歴史的なことがらに関心を持ち、地図から情報を読み取ることで水害との戦いを繰り広げた西濃南部の変容を捉えることを目指した。

具体的には、

- ①浸水予想図から、水害のリスクにはどのような ものがあるかを学ぶ
- ②航空写真から、こうしたリスクのある場所はど のあたりかを調べる
- ③古地図を活用しながら、リスクの高い場所で過去何があったのかを学ぶ

という3段階のステップを踏むことにより、地域の歴史に対する関心と知識を深めようとの試みである。

このための題材として、

- ・「県域統合型 GIS」の web サイト(自分で分布図を操作し調べる)
- ・JAXA より分けていただいた木曽三川下流部の航空写真
- ・岐阜県図書館より借用した古地図(濃勢尾州川 通絵図など)

を用意した。

計画したのは 12 月の1時間であった。学習内容が多すぎるかもしれないとの懸念を抱きつつ、授業に臨んだ。

2 授業展開

【学年】高等学校第3学年 日本史A

【単元名】「歴史と生活」(全2時間)

【単元のねらい】 さまざまな自然環境が人々の暮らしにどのような影響を与えるか分析・理解する力を、 身近な地域の歴史学習を通じて育む

【単元の流れ】

- ・鉄道の発達と水運の衰退(1時間、前期に実施)
- ・水害との戦いと生活文化(本 時)

【本時のねらい】 江戸時代の地図・明治期の地形図と現在の地形図・航空写真を比較して読み、水害の 概要や河川の位置・数、輪中堤などを視点として、西濃南部の自然と社会的景観が変容したことを理解 することができる。

【授業の流れ】(1/1)

学習活動

1 導入

近年の水害と、その水害の写真を示して関心を持たせる 県域統合型GISぎふを利用して、特に激しい浸水が予測されている┃・主題図から傾向をつかむこと 場所を分析する

http://www.gis2.pref.gifu.jp/MyMap2_0/GifuAdvanceMap/Map.jsp?KEY=1176106624701& GKEY=49cc3557f0bf&D1R=200&SRS=2449&CX=-44381. 48&CY=-81097. 94&SC=200000

- ★予想される答え
 - *河川・水路の近く
- * 堤防内側の下流側
- *全体的に西側寄り
- ★浸水のリスクが高い場所であることを確認する
- 2 地図や航空写真を見て観察する

【課題】江戸時代の地図・明治期の地形図と現在の地形図・航 空写真を比べて、西濃南部の地形変化を読みとろう

白板に掲示して自由に観察させる

- ①身近な場所がどのように写っているか確認する
- ②現在の航空写真から、木曽三川の位置を確認する
- ③川に囲まれた地帯であることを確認する
- ④明治初期の地形図と比較して、河川の流路で異なる点がないか
- ⑤堤防道路をたどり、川の合流点で蛇行することを見つける
- ★確認する項目
 - a)油島堤
- b) 長良川・木曽川の背割堤
- c)輪中の形成
- d) 排水機場による堤防の蛇行
- 3 西濃南部における水害との戦いを学ぶ

☆それにもとづく授業の展開(以下の順序で扱う)

- a)→宝曆治水
- b)→ヨハネス・デレーケの治水工事
- c)→外水災害と内水災害
- d)→内水処理の問題、堀田の形成と消失

少なくとも、a),b)については扱う。

4 まとめ

水害との戦いのなかで、西濃南部の自然と社会的景観が変容した ことを理解する。

指導上の留意点 ◎評価規準

- 具体的なイメージをつかむた めに、写真資料を提示する。
- ができるか様子を見て、必要 な手助けを行う
- ◎適切な分析をしているか
 - ・特徴を読み取れるか
 - 特徴から傾向が分かるか
 - ・傾向を言葉で表せるか
- ◎適切な観察をしているか
 - ・特徴を読み取れるか
 - ・特徴に関連する情報を探す ことができるか

(想定外の答えも活用できるよ う留意する)

←より適切な発見ができるよう な声かけを行う

- ・a), b)については地図資料を 利用して説明する(【資料①】 【資料②】
- ・c)を扱うことにより、前項で 扱った浸水予想箇所の分析 を具体的に把握する
- ・d)を扱うことにより、水害を おおよそ克服した現状を知 り、先人の努力に感謝する
- 理解を助けるプレゼンテーシ ョン資料を提示する【資料③】
- ◎本時の評価規準

分析・観察メモを回収

評価:適切に分析ができたか 気付いたことを挙げる ことができたか

3 実践のまとめ

(1)個に応じた指導·評価(A 君)

準備をすすめる中で、今回の授業内容について、小学校等の社会科で既に学んでいることが分かってきた。この授業はコンピュータ室で実施することとし、まず導入として「県域統合型 GIS ぎふ」にアクセスし、それを利用して浸水予測図を観察することとした。この浸水予測図をもとに、どのようなところで浸水程度が激しいのか、その地域の特徴を挙げようと問いかけてみたが、予想に反して大苦戦した。分布図から特徴的なデータや共通点を導き出し、さらにそれを言葉にするのは大変だったようである。そのため、生徒ごとにヒントを出して誘導し発問に答えさせることにした。A君については、特に彼の住む地域に着目して分析させたが、役所などの位置関係など彼の生活経験に根ざすものではなかったのは反省点である。

A君を含めてこの授業に参加している生徒たちは、少なくとも地理歴史科の授業のなかで図から分析する経験が多いとはいえない。しかも、実は難しい発問であった。経験を重ねなければ力を伸ばすことも難しいわけで、生徒のレディネスを見誤ったために授業の出だしで大きく躓いたといえる。もちろんこれは生徒の責任ではない。地図からの分析力を向上させるだけでも一時間設定する必要はあり、授業者の配慮の問題である。

ここで航空写真を白板に掲示し、生徒に見せることとした。当初A君はさほど関心を示さなかったが、自分の家が写っているかもしれないと指摘すると、早速自宅を探しはじめた。他の生徒も加わってきたので、まず学校の位置を示し、そこから大垣駅を導き、あとは利用している鉄道線をたどることで、ほどなく各自自分の家の周辺までたどり着いた。残念ながら教員が期待する水害に関わる話題はなかったが、主体的に読図に取り組んだ。むしろ、本時の主題を離れて生徒は大いにこの写真を楽しんで見ていたと言うことができる。

木曽三川の名称、輪中地帯であることなどを確認したのち、「明治二十九年七月岐阜縣水害概況 図」・「濃勢尾州川通絵図」と比較してみること にした。川筋の変遷が辿れれば良いと思ったのだが、地名を読み取ることで生徒の関心は大きく広がっていった。特にA君は自分の家は古地図でいうとどの場所かを探しはじめ、そのために地名を読み取っていた。

一方、明治時代の流路との違いについて、A君は小学生の時に学んだ宝暦治水について指摘しようとしていたが、具体的にどこかを明確にすることができなかった。そこで川と川の間が狭くなっているところと指摘すると、意外に南にあるとの感想とともに正しく探すことができた。他の生徒は、木曽川の背割堤を見つけ、千本松原との違いに興味を持った。ここまで関心が高まれば十分な効果があったと判断し、宝暦治水とデレーケの治水の解説を行った。

(2)児童生徒の変容(A 君)

A君は普段から授業に快活に取り組んでいた。 どちらかというと他の生徒の発言を受けて意見 を述べることが多かったのだが、本時は極めて積 極的だった。教材となった航空写真や地図に興味 を示していただけではなく、自分の住む場所について学ぶことで、高い関心を示した。また、自分の住む地域の変容を自ら表現し、それを歴史的事柄に結びつけようとしていたという点でも、本時のねらいは達成できたと考えている。

(3)成果と課題、課題解決の方途

本授業で目指した力をつけさせることができたと言えないが、歴史に接するツールとしての古地図の楽しさを知るきっかけになり、こうした形で歴史や古地図への関心が高まれば、古地図と現在の地図を比較することだけでも十分に意義がある授業ができたと思われる。人々がいかに水害と戦ったか地図を通じて学ぶことができたかもしれないのは反省点である。土地条件図をもとに旧河道を参考にした考察もできたはずだというご指摘もいただいた。

今回の反省を活かすためには、特に普段と異なる取り組みをする時には生徒のレディネスを十分に把握し必要な力を補足すること、そしてわずかな時間で展開を欲張らないことが大切である。

4 参考資料

【資料①】↓濃勢尾州川通絵図(岐阜県図書館)

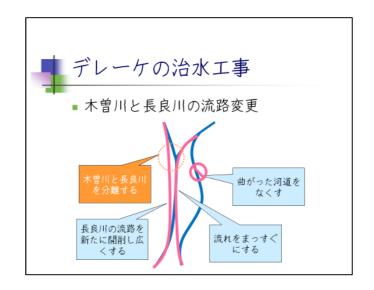




【資料②】明治二十九年七月岐阜縣水害概況図(岐阜県図書館)↑

【資料③】

授業時に提示したプレゼンテーション 資料の一部

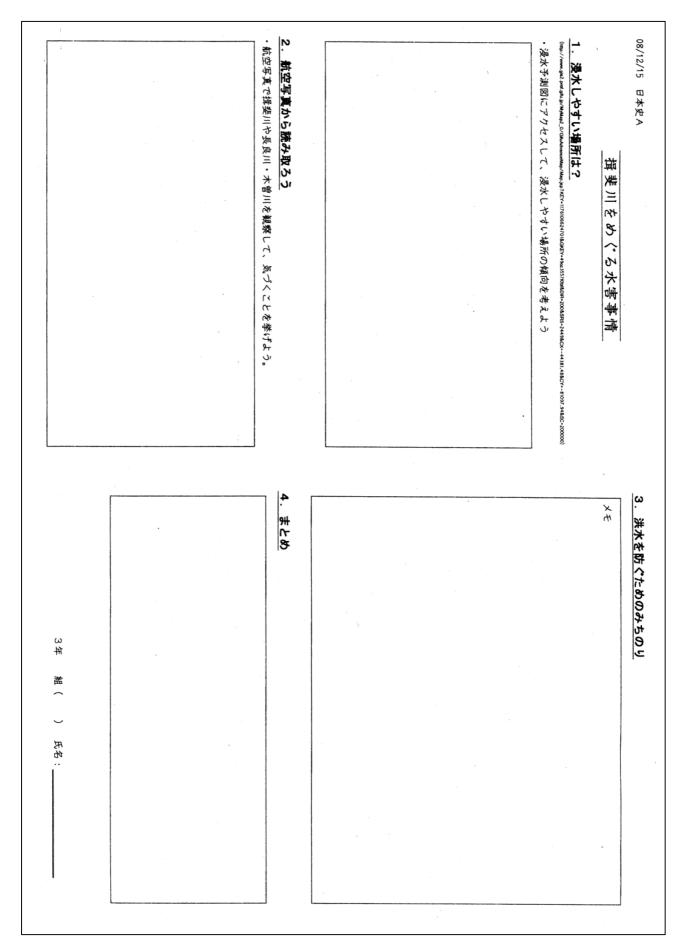


【授業の様子】





62





「木曽三川管内図」国土交通省中部地方整備局 木曽川上流河川事務所 平成18年発行